

2026年度（2027年2月期） 中間決算説明資料

2026年10月2日

株式会社瑞光

- 1** 2026年度上期の決算概要
- 2** 2026年度の業績予想・株主還元
- 3** 2026年度のトピック紹介

1

2026年度上期の決算概要

1. 業績サマリ

- 売上高は10,899百万円（前年同期比＋3.9%）、スパンレース事業が寄与し増収ながら、機械事業は実質減収
- 営業利益は▲222百万円の赤字。瑞光上海の大幅売上減や新製品案件の納期遅延によるコスト増が主因
- 下期は、瑞光上海の売上が増加する他、納期遅延によるコスト増も収束し、通期では売上・利益共に回復

(単位：百万円)	2024年度上期	2025年度上期			2026年度上期			
	金額	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比	
							増減額	増減率
売上高	8,405	10,493	100.0%	+24.8%	10,899	100.0%	+405	+3.9%
売上総利益	1,395	1,766	16.8%	+26.6%	1,355	12.4%	▲ 410	▲23.2%
販売費及び一般管理費	1,575	1,379	13.1%	▲12.4%	1,578	14.5%	+198	+14.4%
営業利益	▲ 179	386	3.7%	—	▲ 222	▲2.0%	▲ 608	—
経常利益	▲ 130	422	4.0%	—	▲ 158	▲1.5%	▲ 580	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲ 705	316	3.0%	—	▲ 146	▲1.3%	▲ 463	—
1株当たり当期純利益	▲ 26.66円	11.97円	—	—	▲ 5.65円	—	▲ 17.62円	—
設備投資額	551	103	—	▲81.3%	343	—	+240	+232.9%
減価償却費	410	425	—	+3.5%	479	—	+54	+12.9%

2. セグメント情報

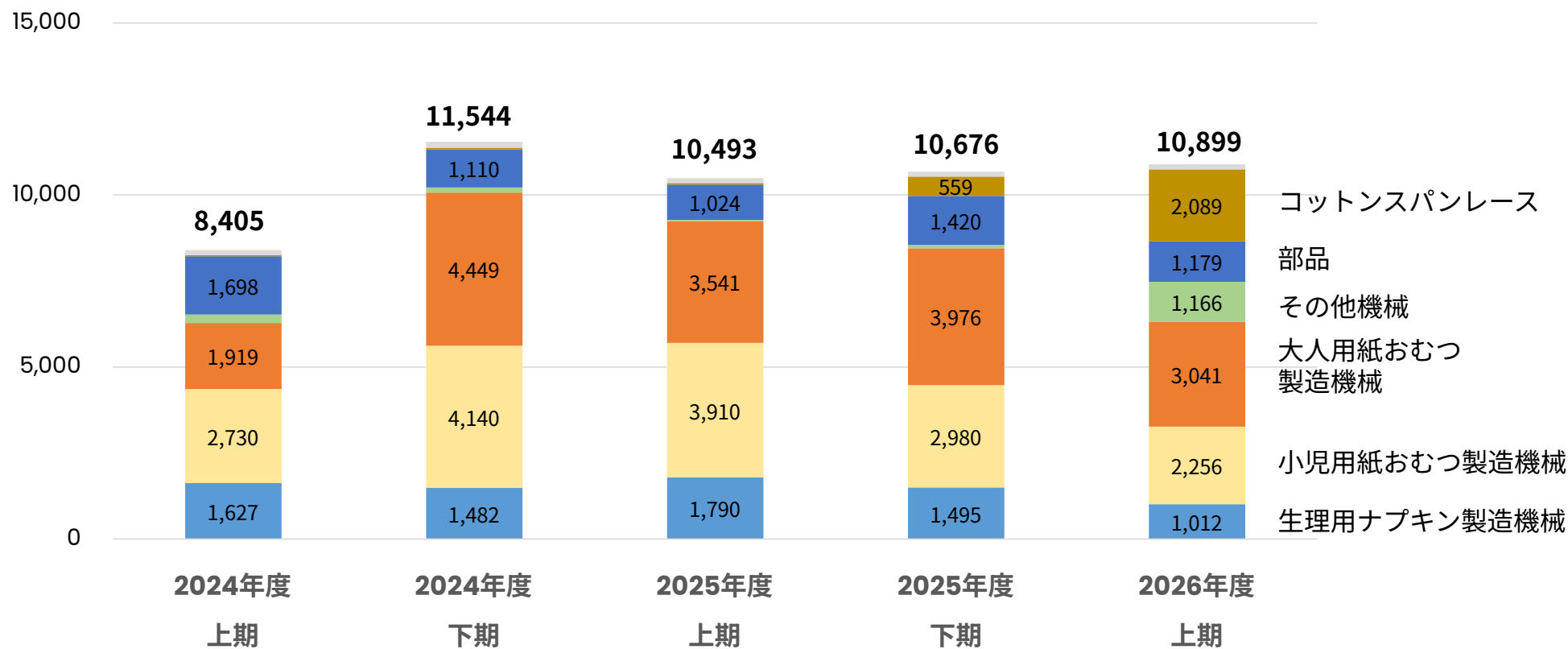
- 衛生用品製造機械：売上高8,656百万円、前年同期比▲1,645百万円。瑞光上海の出荷が下期に集中
- コットンспанレース：譲受した事業を取り込み、営業利益3百万円と初年度から黒字を確保

(単位：百万円)		2025年度上期	2026年度上期		
		金額	金額	前期比	
				増減額	増減率
衛生用品製造機械	売上高	10,301	8,656	▲ 1,645	▲16.0%
	営業利益	408	▲ 227	▲ 635	—
	(利益率)	(4.0%)	(▲2.6%)	—	(▲6.6pt)
コットンспанレース	売上高	47	2,089	2,042	+4344.7%
	営業利益	▲ 19	3	22	—
	(利益率)	(▲41.0%)	(0.2%)	—	(+41.2pt)
その他	売上高	144	152	8	+5.6%
	営業利益	▲ 3	▲ 3	0	—
	(利益率)	(▲2.1%)	(▲2.0%)	—	(+0.2pt)
連結PL計上額	売上高	10,493	10,899	406	+3.9%
	営業利益	386	▲ 222	▲ 608	—
	(利益率)	(3.7%)	(▲2.0%)	—	(▲5.7pt)

3. 製品種類別 売上推移

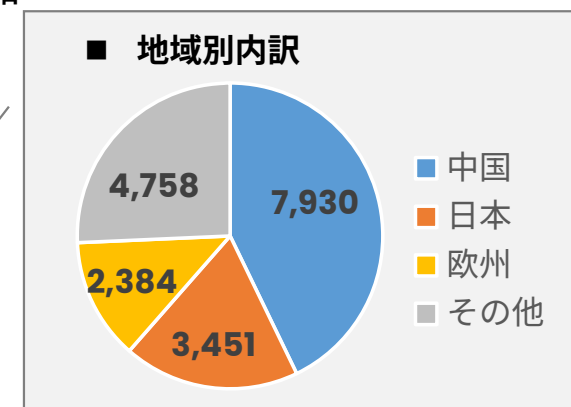
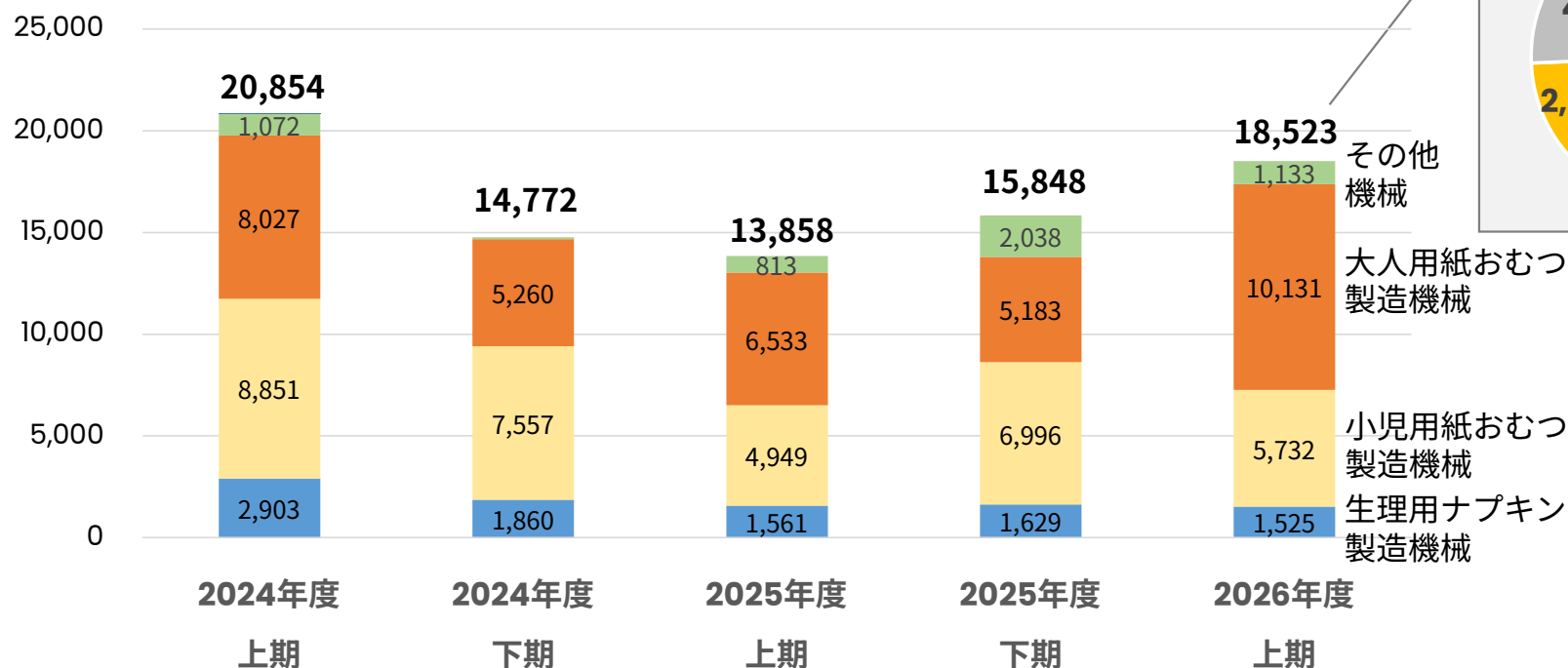


- 2026年上期の売上は、子供用・大人用共に減少（直近3期の合算売上は、75億円⇒70億円⇒53億円）
- コットンспанレースは、2026年1月事業開始により増加
- その他機械は、新規事業のカバーオール加工機が牽引



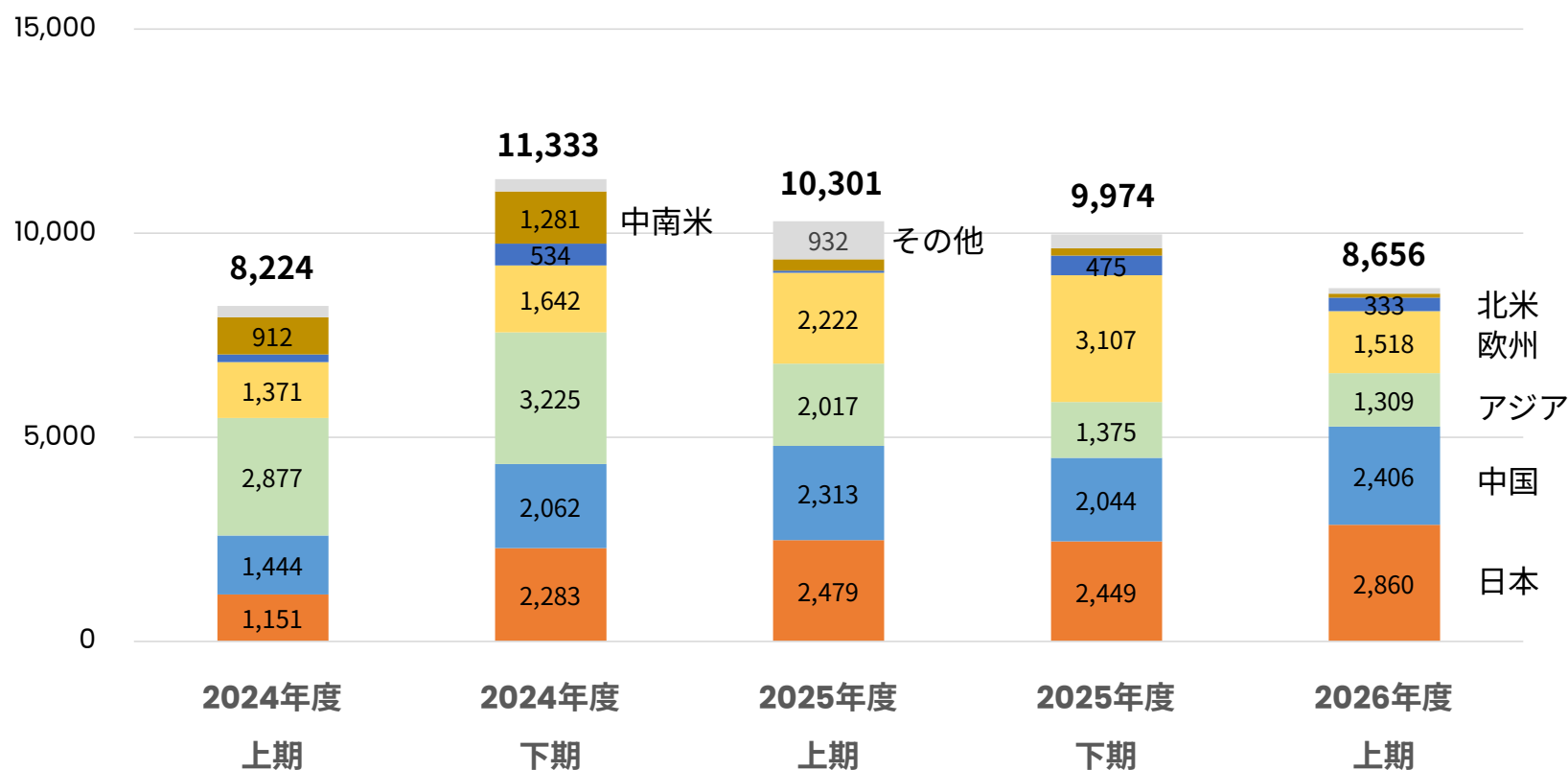
4. 受注残高推移（衛生用品製造機械）

- 2026年上期末時点の受注残高は18,523百万円、内、瑞光上海が7,930百万円
- 子供用・大人用の直近3期の合算受注残高は、115億円⇒122億円⇒158億円と増加
- 尿もれパッド・失禁製品を含めた大人用紙おむつが増加



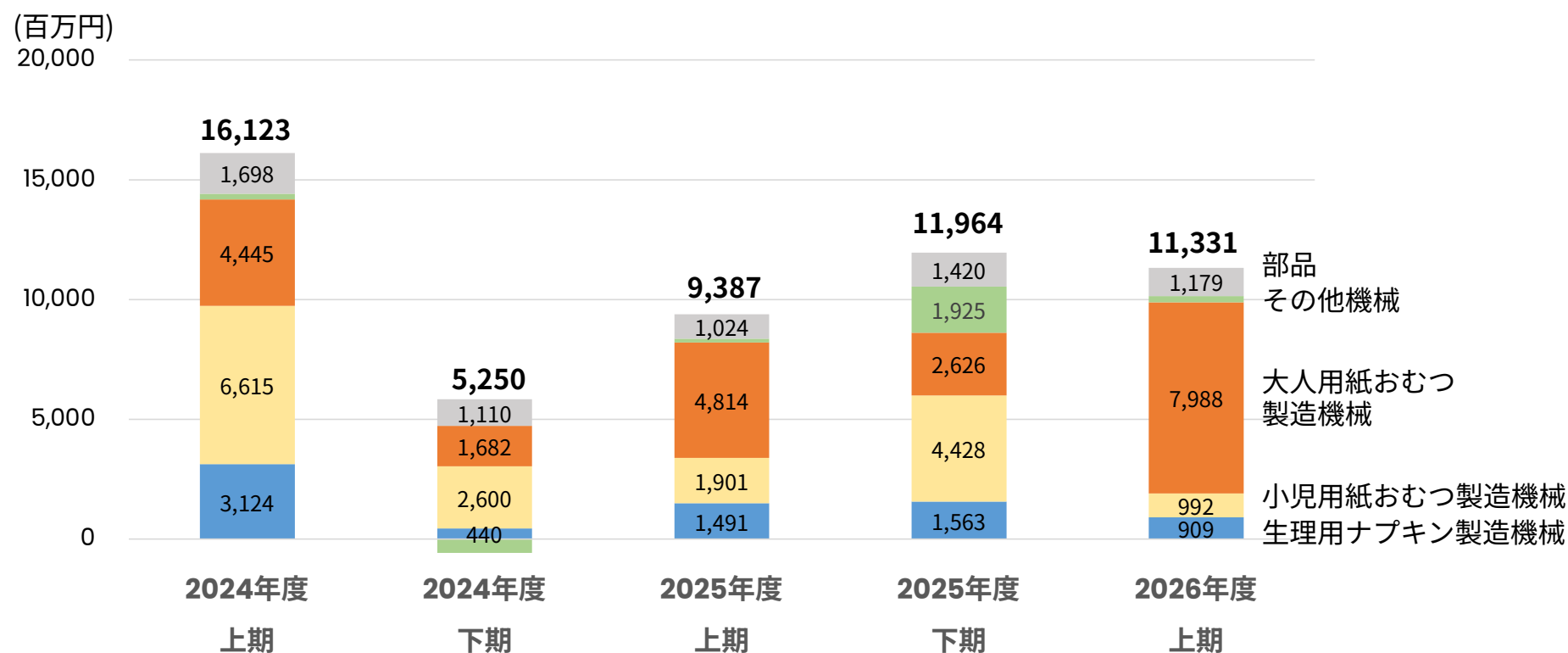
5. 地域別 売上推移（衛生用品製造機械）

- 日本向け、中国向けは大人向け紙おむつ主体に底堅く推移
- 欧州向けの減少は、前期のギリシャ向け大型案件の反動と、DELTAの出荷が下期に傾斜していることが主因



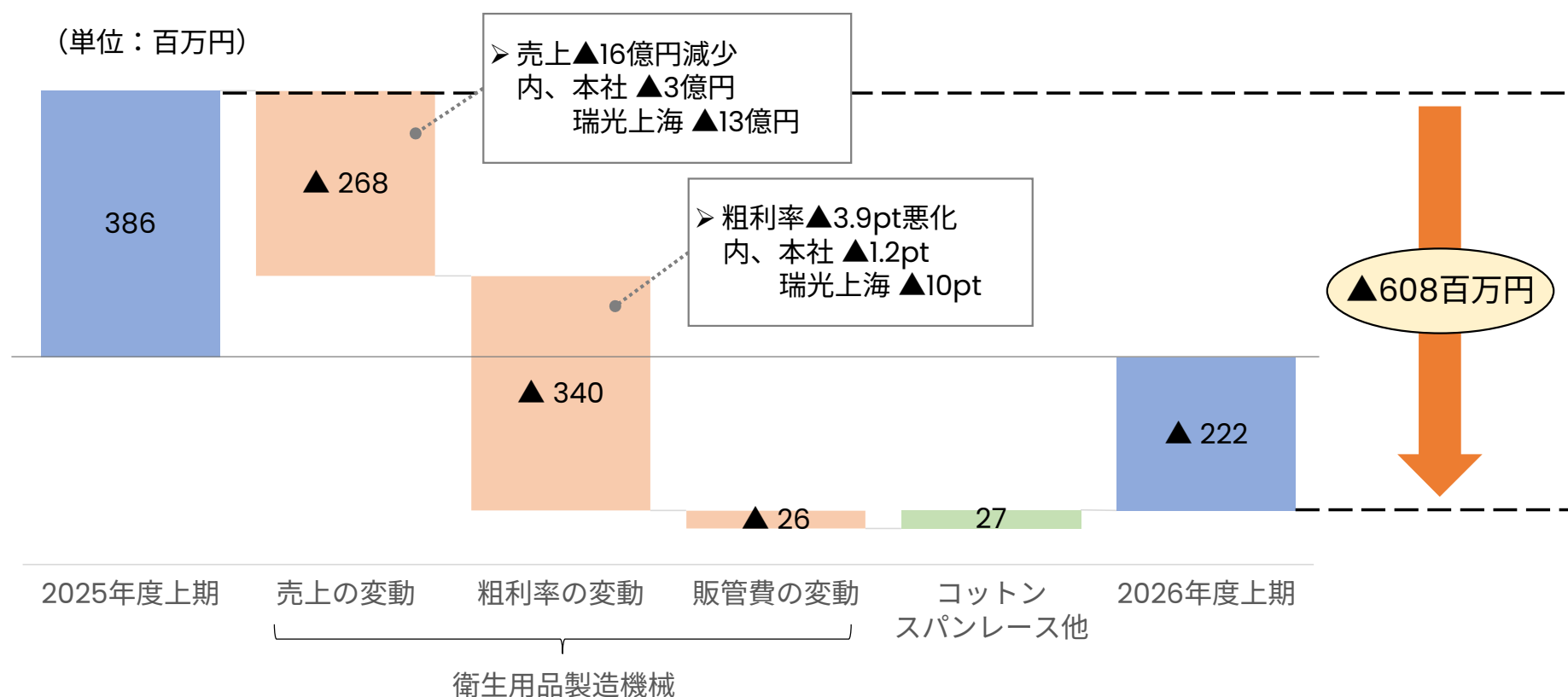
6. 受注高推移（衛生用品製造機械）

- 2026年上期の受注高は11,331百万円、前期と同水準を確保。
その内、大人用紙おむつ製造機械は7,988百万円であり、全体の7割を占めている



7. 営業利益の増減要因（前年同期比）

- 営業利益は前年同期比▲608百万円の減益。主因は、瑞光上海の売上▲13億円減と、それに伴う稼働率低下、また、中国国内での価格競争による粗利率低下▲10ptによるもの。



8. 営業外損益・特別損益（前年同期比）

- 営業外収益は為替差益などで72百万円増加
- 営業外費用は支払利息、PZ持分法による投資損失などで44百万円増加

(単位：百万円)		2025年度上期	2026年度上期	増減額
営業外 収益	受取利息	36	41	4
	受取配当金	7	8	0
	為替差益	—	40	40
	その他の営業外収益	34	61	26
	合計	79	151	72
営業外 費用	支払利息	12	38	26
	社債利息	12	—	▲12
	持分法による投資損失	3	47	44
	為替差損	14	—	▲14
	その他の営業外費用	1	0	▲1
	合計	43	87	44
特別 利益	固定資産売却益	0	0	0
	投資有価証券売却益	0	—	0
	合計	0	0	0
特別 損失	固定資産除売却損	0	5	5
	合計	0	5	5

円安により、為替差益が発生

前期に社債償還に伴い、借入を実施
また当期に新規借入を実施、変動金利も上昇

関連会社PROGA ZUIKOに関する
持分法損益

9. 貸借対照表

- 前期末比で資産は1,752百万円、負債は1,863百万円増加
- 下期出荷に向けた棚卸資産増加や、それに伴う運転資金借入の増加によるもの

(単位：百万円)	2025年度末		2026年度上期末		前期比増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	32,702	62.4%	34,227	63.2%	+1,525
現金及び預金	13,403	25.6%	11,897	22.0%	▲1,505
売上債権	10,552	20.1%	11,066	20.4%	+513
棚卸資産	7,504	14.3%	10,551	19.5%	+3,047
その他流動資産	1,241	2.4%	711	1.3%	▲530
固定資産	19,738	37.6%	19,965	36.8%	+227
有形固定資産	17,537	33.4%	17,567	32.4%	+29
無形固定資産	620	1.2%	622	1.1%	+2
投資その他の資産	1,579	3.0%	1,775	3.3%	+195
資産合計	52,440	100.0%	54,192	100.0%	+1,752
負債	16,116	30.7%	17,979	33.2%	+1,863
仕入債務	3,235	6.2%	3,183	5.9%	▲51
有利子負債	6,225	11.9%	7,543	13.9%	+1,317
契約負債	3,155	6.0%	4,112	7.6%	+957
その他負債	3,500	6.7%	3,140	5.8%	▲360
純資産	36,324	69.3%	36,213	66.8%	▲110
負債純資産合計	52,440	100.0%	54,192	100.0%	+1,752

➤ 本社 ▲13億円
(主に運転資金での流出)

➤ 瑞光上海 +18億円
(出荷が下期に集中している影響)
➤ 本社+8億円

➤ 本社で新規の銀行借入15億円

➤ 瑞光上海 +10億円
(受注増加の影響)

	2025年度	2026年度上期
DEレシオ	0.17倍	0.21倍
自己資本比率	69.1%	66.7%

10. キャッシュ・フロー

- 営業CFは当期純利益がマイナスであることに加え、棚卸資産の増加が大きく、▲2,260百万円
- 投資CFでは、瑞光上海で定期預金に預け入れたことで、▲1,651百万円

(単位：百万円)	2025年度上期	2025年度下期	2026年度上期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	105	1,027	▲ 2,260	▲ 2,365
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 2,841	3,106	▲ 1,651	1,190
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 370	▲ 1,339	629	1,000
現金及び現金同等物の増減額	▲ 3,417	3,085	▲ 3,111	306
現金及び現金同等物の期末残高	6,314	9,400	6,289	▲ 25
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 2,736	4,133	▲ 3,911	▲ 1,175

当期のキャッシュ・フローの主な内訳

営業キャッシュ・フロー

- 税金等調整前当期純利益：▲163
- たな卸資産の増加：▲ 2,667
- 減価償却費：479

投資キャッシュ・フロー

- 定期預金の増加：▲1,310
- 有形固定資産の取得：▲331

財務キャッシュ・フロー

- 配当金の支払い：▲158
- 長期借入金約定返済：▲185
- 自己株式の取得：▲478
- 新規長期借入金：1,500

2

2026年度の業績予想・株主還元

1. 業績予想
2. 株主還元

1. 業績予想 ※2026/4/3開示資料を再掲

- 売上は中期計画通り270億円（内新規事業50億円）、営業利益17.8億円を計画
- 売上総利益率19%まで回復を目指す。一方で、中東情勢のコストアップ影響は不確定要素として折り込まず

(単位：百万円)	2025年度実績		2026年度業績予想			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	
					増減額	増減率
売上高	21,170	100.0%	27,000	100.0%	+5,830	+27.5%
売上総利益	3,204	15.1%	5,180	19.2%	+1,976	+61.7%
販売費及び一般管理費	3,042	14.4%	3,400	12.6%	+358	+11.8%
営業利益	162	0.8%	1,780	6.6%	+1,618	+998.8%
経常利益	350	1.7%	1,820	6.7%	+1,470	+420.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,972	9.3%	1,280	4.7%	▲ 692	▲35.1%
1株当たり当期純利益	74.51円	—	48.35円	—	▲ 26.16円	▲35.1%

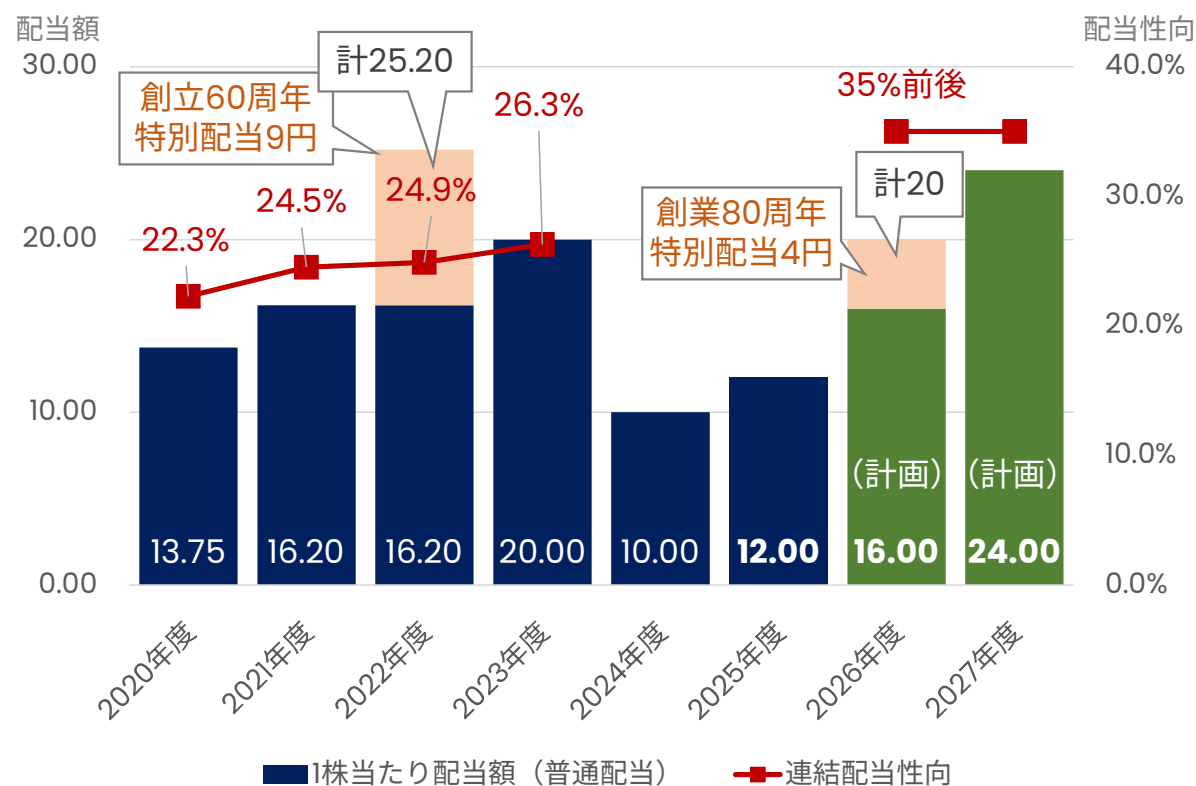
- 国内、中国向けが堅調
- DELTAの売上が貢献
- スパンレース事業、防護服事業の新規事業が寄与

- 海外顧客向け新機種の出荷が完了
- 部品営業、サービス営業の強化により、利益率確保
- グローバルでの調達
- 出荷リードタイムの適正化

2. 株主還元 ※2026/4/3開示資料を再掲

- 連結配当性向をベースに配当水準を決定する基本方針は従来通り
- 2026年2月25日に500千株の自己株式を取得済

【株主還元】



＜2026年度の株主還元の方針＞

- 連結配当性向35%前後を目標
- 2026年度は、創業80周年記念配当4円を加え、20円を予定

3

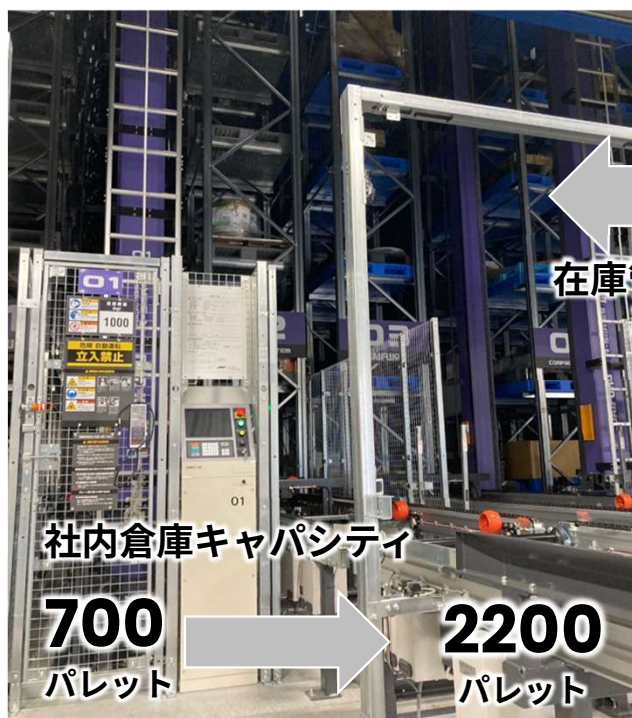
2026年度のトピック紹介

1. 自動倉庫導入
2. スパンレース事業
3. 防護服事業
4. 排泄器事業
5. リサイクル事業
6. 自動包装機械分野における成長投資機会の検討

1. 自動倉庫導入

2026年7月に本社工場に自動倉庫を設置
外部倉庫賃借コストを削減するとともに、社内物流・在庫管理の効率化を実現

■ 自動倉庫



在庫管理システム
との連携



外部倉庫費用の削減
年間20～30百万円の削減効果

タイムリーな出庫
翌日・翌々日払出⇒当日払出

入出庫/仕分け作業の効率化
ロケーション管理の徹底

2. スパンレース事業



2025年12月にユニチカ株式会社より事業を譲受け、スパンレース不織布事業に参入
原価改善、販売強化により、恒常的に営業利益率10%を出せる収益構造を目指す

原価改善

- 外注工程の内製化及び異物除去ロボット導入
- 仕入先多様化
- 不織布製造機械改造

販売強化

- 新商品開発
- 販売単価見直し
- 新規取引先開拓

恒常的に営業利益率10%を出せる収益構造を目指す

■ 垂井工場 リワインド機



- リワインド機追加設置、内製化の推進
- 異物除去ロボット導入予定
大幅な工数削減を実現

■ コットエース® 綿100%のコットンспанレース



- 仕入先多様化として、海外（アメリカ産原綿をインド加工）のさらし綿を使用拡大

3. 防護服事業（全自動カバーオール加工機）



世界初の全自動カバーオール加工機を2027年春に出荷予定
次年度以降に関連会社PROGA ZUIKOにおいてカバーオールを生産、グローバル市場に販売

■ 全自動カバーオール加工試作機/サンプル品



従来は手作業であった
型取り・縫製工程を
全て機械加工で代替、
**大幅なコスト削減と
品質向上を実現**



■ スケジュールフロー

ZUIKO
(加工機の製造・販売)

試作機によるサンプル取り実施済み
2027年春季に1号機出荷予定

PROGA ZUIKO
(韓国関連会社、
カバーオールの製造・販売)

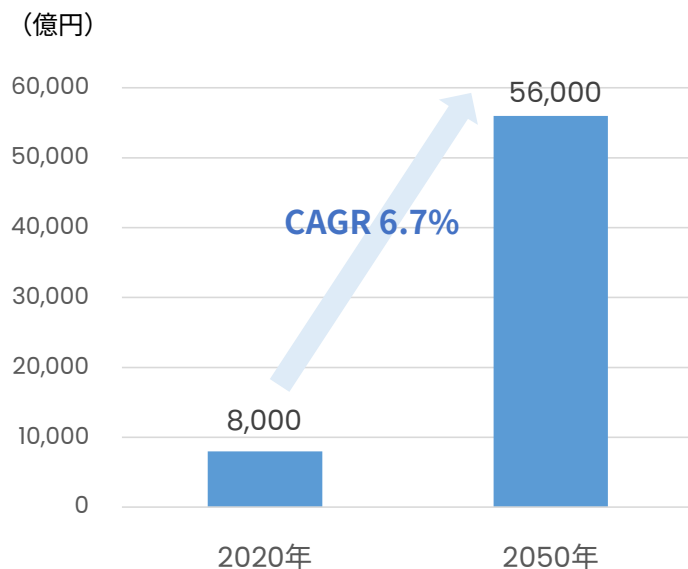
次年度以降、グローバル市場に販売

化学・石油・半導体等のお客様
使い捨てカバーオールガウン市場
24年25億⇒33年45億米ドル

4. 排泄器事業（自動排泄処理装置）

市場拡大する介護関連機器において、自動排泄処理装置を開発、機能性と使いやすさで差別化
10月にモックアップを韓国展示会出展、次年度に韓国で販売、その後日本にも展開予定

■国内介護関連機器市場規模



出典：経済産業省
「ヘルスケアサービス市場等に係る調査事業」

■自動排泄処理装置「清空（Seia）」



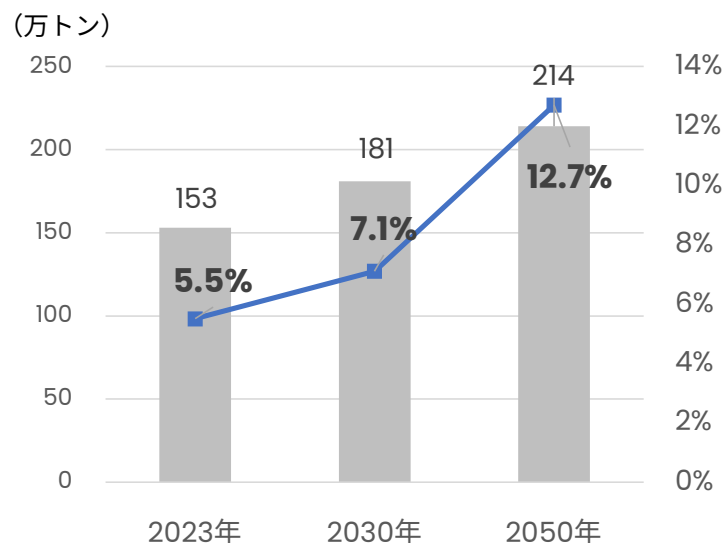
要介護者、ケアラー両者に寄り添った機能向上及び使いやすさを追求
他社製品との差別化を実現

5. 使用済紙おむつリサイクル事業



今後、拡大する使用済紙おむつのリサイクル需要に対して、
下期に新型機のプロトタイプ機の製造に着手、次年度以降に本格的な販売活動を計画

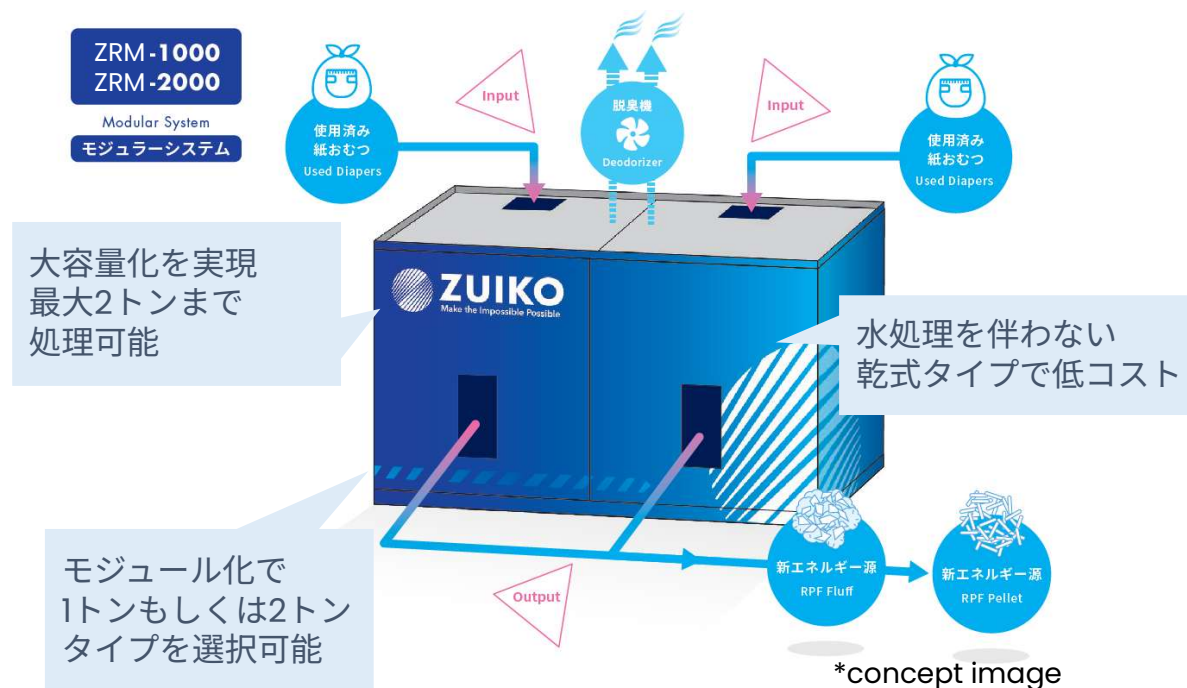
■ 国内使用済紙おむつ（大人用）の排出量と
使用済紙おむつの一般廃棄物に占める割合



国としてリサイクルを実施又は検討する
自治体数を23年78から30年150とする目標

出典：環境省「使用済紙おむつの再生利用等に関するガイドライン
改定について」

■ 新型 使用済み紙おむつリサイクル機



6. 自動包装機械分野における成長投資機会の検討

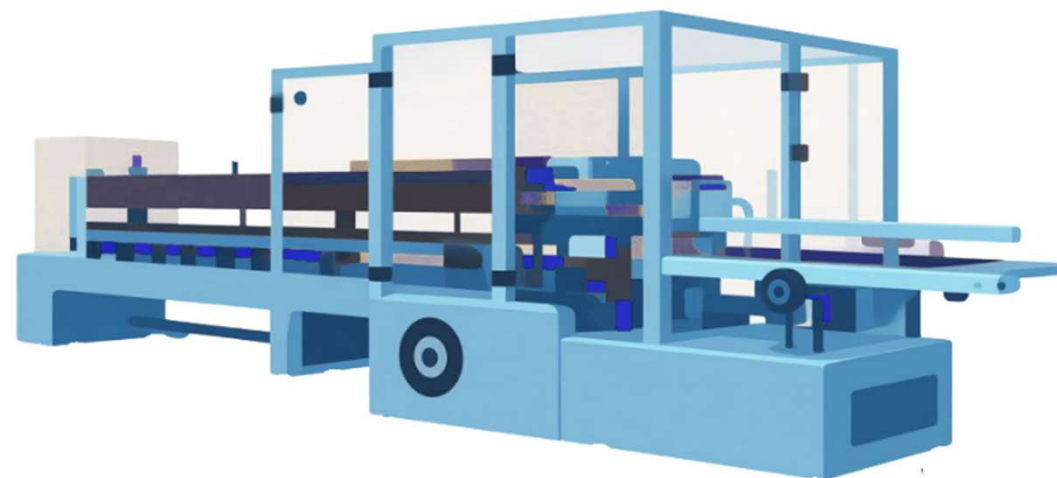


当社は、自動包装機械分野における事業領域拡大及び技術ポートフォリオ強化を目的として、資本業務提携及び技術提携等を含む成長投資機会を検討しております

尚、現時点において開示すべき事項はありません

当社が成長投資において重視する主な事項

- ① 製品ラインアップの拡充
- ② 技術力及び開発力の強化
- ③ 国内外における事業基盤の強化
- ④ サービス提供力の向上
- ⑤ 生産・調達機能の強化





IRに関するお問い合わせ先

株式会社瑞光 経営戦略部

電話：072-648-2215

e-mail：ir-contactus@zuiko.co.jp

本資料に掲載している将来予測に関する情報は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいています。
そのため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性があります。